

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
語彙力や文章を構成する力を高める。	文章の構成や内容を理解し、自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりする力を高める。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	<p>ア 授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使えなかったりする児童が多い。</p> <p>イ 文章を書くことに抵抗を感じる児童が多く、深く考える前に諦めてしまう傾向が強い。</p>	<p>ア 導入時に児童のやる気を引き出す、ことわざや、四字熟語のクイズを設定する。</p> <p>イ 学校行事や他教科と結び付けて単元を構成し、文章を書くことが必然になるような課題を設定する。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】</p> <p>所見</p>
第5学年	<p>ア 授業やノート、日常会話の中で語彙が少なかったり熟語を使ったりしている児童が少ない。</p> <p>イ 自分の考えをまとめたり、他者に伝えたりすることが苦手な児童が多い。</p>	<p>ア 既習事項の振り返りをしながら、テンポのよい授業で集中力を持続出来るようにする。</p> <p>イ グループ等の少人数で考えを述べる場面やタブレットで考えを共有する場面を作る。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】</p> <p>所見</p>
第6学年	<p>ア 文章を構成する力や語彙力が弱いため、『書く』単元において、教科書で求められている文章量に達することが出来ない。</p> <p>イ 読書量が少ないため、「読む」単元において文章全体の構成や内容を把握・理解する力や叙述から筆者の考えや登場人物の気持ち等を読み取る力が弱い。</p>	<p>ア 教科書の文章より簡単なモデル文や型を提示し、スモールステップで学習を出来るようにする。</p> <p>イ ワークシートを使用したり、授業の最初に黙読をする時間を取ったりすることで文章構成や内容を分かりやすくする。</p>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>4年：導入時に行っている「ことわざクイズ」の問題を自分の端末を使い、PowerPoint に作成し、毎時間1つずつ出題している。</p> <p>5年：全体交流では、教科書の本文をスクリーンに映し出し本文のどこを学習しているか分かりやすく提示する。Teams で資料の提示や児童のノートの紹介、意見の交流などで活用している。</p> <p>6年：「書く」や「話す・聞く」単元では、Word を使い、修正や推敲をしやすくしている。</p>	<p>4年：授業の終末には「振り返り」の時間を設定し、そこから出た児童の願いや思いを次の時間の課題に結び付けるようにしている。</p> <p>5年：単元の流れをしっかりと確認するとともに、本時の流れを黒板に提示し見通しをもって学習に取り組めるようにする。合わせて、毎時間振り返りを行う。</p> <p>6年：学習計画を児童と考えたり、委員会やクラブ活動、学校行事と学習を関連付けたりすることで学びの必然性をもたせている。</p>

算数科・数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・式や計算の意味等を確実に理解できるようにする。	・言葉や式、図、表、グラフを用いて論理的に説明・記述できるようにする。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第4学年	<p>ア 九九や基本的な計算力が身に付いていない児童が多い。</p> <p>イ 算数で学習した言葉や公式を使って端的に説明できる児童は少ない。</p>	<p>ア e ライブラリの活用によって児童自身が自分の課題を把握し、繰り返しドリルに取り組む。</p> <p>イ 既習事項の活用にも目を向けさせ、解決方法の見通しをもたせる。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】</p> <p>所見</p>
第5学年	<p>ア 基本的な四則計算の知識、技能が身に身に付いている児童は多いが、式の意味を理解している児童は少ない。</p> <p>イ 言葉や式を用いて論理的に説明できる児童は少ない。問題文の読み取りに課題がある。</p>	<p>ア 単元ごとに演習問題や復習問題に取り組む。東京ベーシックドリルの苦手な領域を抽出した問題に取り組む。</p> <p>イ 子ども同士の気付きや発見の機会をもつために、ペア学習やグループ学習等での伝え合いや高め合いの場を与える。</p>	<p>ア 市学力調査【知識・技能】</p> <p>イ 市学力調査【思考・判断・表現】</p> <p>所見</p>
第6学年	<p>ア 問題文の読み取りに課題がある児童が多く、計算に苦手意識をもっている傾向ある。</p> <p>イ 自分の考えをノートに書くことに抵抗は少なく、しっかり思考することができる。</p>	<p>ア 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を関連付けさせて捉えさせる。</p> <p>イ 個人の考えをもった上で、グループや全体でお互いの考えを表現する活動を位置づける。</p>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1端末末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>4年:タブレット端末や電子黒板などを活用することで、自他の考えの視覚化や共有化を図る。</p> <p>5年: 学習支援ソフトの活用により、問題解決の方法をまとめたり、他者へ説明したりすることができる。</p> <p>6年: ワークシートや思考ツールを活用し、自分の考えをまとめたり、複数の考えを比較したりすることで、よりよい方法を見出すことができる。</p>	<p>4年: 前時の学習を振り返らせたり、生活場面に関連のあるもの、興味・関心を高めるもの等を提示したりする。</p> <p>5年: 学習の振り返りをもとに、次時の課題を設定したり、単元の見通しをもたせたりする。</p> <p>6年: 授業の中で児童が見出した新たな問いを共有し、単元の学習の見通しをもたせる。</p>

--	--